

日本型金融制度の継続と変化をめぐる政治過程 —合理的選択制度論による制度変化と1990年代不況の分析—

清水 直樹

本稿の目的は、日本が1990年代不況に陥った原因を政治学的に明らかにすることである。

1990年代不況は、1992年から1994年にかけての不況期、1995年から1996年にかけての回復期、1997年第2四半期から1999年にかけてのマイナス成長期、の3つに分けることができる。この1990年代不況を説明しようとする経済学の分析は、①日本型経済システムの継続を強調する議論、②不十分な財政拡張政策を強調する議論、③不十分な金融緩和政策を強調する議論、④不良債権処理の先送りを強調する議論、⑤バブルの発生と金融システム不安の発生を強調する議論があるが、①から④は、景気の変動をうまく説明できていない。そこで景気の変動をうまく説明できるバブルの発生と金融システム不安の発生を強調する議論を本稿では採用する。この議論は1990年代の経済パフォーマンスを、1992-1994年の不況はバブル期の過剰な設備投資による大型ストック調整によってもたらされた、1995-1996年にかけての景気回復はストック調整の終了による設備投資の回復によってもたらされた、1997-1999年のマイナス成長は金融システム不安の発生によって生じた金融機関の貸し渋りが設備投資の抑制したことによってもたらされた、と論じている。

それでは、なぜバブルと金融システム不安は発生したのだろうか。

第1に、バブルの発生の直接的な原因は、1980年代後半、銀行が不動産関連融資を急増したことである。銀行が不動産関連融資を急増したのは、企業の資金調達に関する制度が変化することで大企業の銀行離れが進んだこと、金利に関する制度が変化することで銀行の資金調達のコストが上昇したこと、そして金融業務分野に関する制度が継続したことによって銀行が大企業にサービスを提供できず、新たな顧客として不動産関連融資を拡大したことが原因である。つまり金融機関と大企業を取り巻く金融制度が不動産関連融資の急増をもたらすような形に変化したことが、不動産関連融資の急増をもたらした原因なのである。

第2に、バブルの発生の間接的な原因は、1980年代後半、日本銀行の低金利政策が不動産関連融資の急増を助長したことである。日本銀行が低金利政策実行したのは、政府・大蔵省が日本銀行に影響力を行使できる制度配置であったことが原因である。すなわち政府・大蔵省は、日本銀行に影響力を行使できる権限を用いて日本銀行に低金利政策を実行させたのである。さらに言えば、政府・大蔵省が日本銀行に影響力を行使できる制度配置が、1980年代後半まで継続したことが原因である。

第3に、金融システム不安が発生した原因は、三洋証券の破綻処理の際、コール市場でデフォルトが発生し、大型金融機関が連鎖破綻したことである。コール市場でデフォルトが発生したのは、大蔵省が未整備な金融機関の破綻処理制度であるにもかかわらず、三洋証券を破綻処理したことが原因である。さらに言えば、未整備な金融機関の破綻処理制度が継続したことが、金融システム不安を発生させた原因なのである。

要するに、金融機関と大企業を取り巻く金融制度が変化し、政府・大蔵省と日本銀行の制度配置と未整備な金融機関の破綻処理制度が継続したことが1990年代不況をもたらした原因なのである。それでは、なぜ金融制度このように1990年代不況をもたらすような形に変化、あるいは継続したの

だろうか。この問いに解答を与えることで、日本が1990年代不況に陥った原因を明らかにすることが本稿の目的である。

この問いに解答を与える本稿の仮説は、次のとおりである。すなわち、制度変更の権限を持つアクター（与党政治家や大蔵省など）が、制度変更の権限を持たないアクター（金融機関など）と相互作用し、制度を維持して得られる利益と、制度を変更して得られる利益を勘案した上で、制度維持、あるいは変更を決めるということである。

第1に、金融機関と大企業を取り巻く金融制度のうち企業の資金調達に関する制度と金利に関する制度が変化したのは、権限を持つアクターの制度を変更して得られる利益が大きかったからである。一方、金融機関と大企業を取り巻く金融制度のうち金融業務分野に関する制度が継続したのは、権限を持つアクターの制度を維持して得られる利益が大きかったからである。

第2に、政府・大蔵省と日本銀行の制度配置が継続したのは、権限を持つアクターも権限を持たないアクターも、制度を維持して得られる利益の方が大きかったからである。

第3に、未整備な金融機関の破綻処理制度が継続したのは、権限を持つアクターの制度を維持して得られる利益が大きかったからである。

この仮説を、金融規制改革、金融政策、国債管理政策、金融機関の破綻処理政策の事例を分析することで論証していく。